

### III. M. Krasner, 論文 = ツイテ / 疑問

中山正 (名大)

Paris, C.R., 1938年 = M. Krasner の  
「Une généralisation de la théorie locale  
des corps de classes.」 + 表題, 下 = 三ツ程, 論文  
ヲ著イテ居マス。ソレハ大体ヲ逆数條, 上, 任意, 拡大  
ヲ或ル種ノ方程式, 集リテモツテ特徴ヅケテ云々スルノデ  
アリマスガ, 拡大体ヲ特徴ヅケルノニ方程式ヲモツテ来ル  
ノデハ如何カト思フノデアリマスガ, 然レニ面白イコト  
モアリマス。

処ガソコデーニ一寸ドウモ変ニ思ハレル個所ガアリマ  
スノデ, ソノコトニツイテ御教示ヲ得タイト思フノデス。  
Krasnerノ他ノ論文ソノ他カラ見テモ, ガッチリシテ  
本ヲサウ間違ヒナドシサウニモナク思ハレルノデスガ, 從

ツテ小生、考へ違ヒカモ知レテセンガ、以下ソノ点ヲ述ベテ見マス。

先ツ、 $k$ ヲ子適數体、 $f$ ヲソノ素いでヤル、 $\pi$ ヲ素元： $f = (\pi)$ トスル、マタ $k$ 或ヒハソノ拡大体、元 $\alpha$ ヲアル子ノ中ノ位數ヲ  $w(\alpha)$ テ表ハス。

扱テ、 $g(x)$ ヲ $k = \text{オケル}$ 既約多項式ヲ最高係數 $g_0$ ガ $1 + v \in \mathbb{Z}$ トシ、ソノ次數ヲ $n$ トスル、ソノ絶対項 $g_n$ 、 $w(g_n)$ ヲ $f$ トスレバ、 $g(x)$ ノ根ハスベテ $f/n + v$ 子ノ位數ヲモツ、コノ事ヨリ直チニ

$$(1) \pi^{-f} g\left(\pi^{\frac{f}{n}} \cdot x\right)$$

ナル ( $k(\pi^{-\frac{f}{n}}) = \text{オケル}$ ) 多項式ハ整係數ヲモツ、シカモ最高係數 $1 + v$ 。ソノ根ハイッレモ子ノ位數 $0$ ヲアル。

コノ $\pi$ 、特ニ $f > 2$ ヲ $f$ ガ $2$ ヲ割リ、而カモ (1)ニ對シ

$$(2) \pi^{-f} g\left(\pi^{\frac{f}{n}} \cdot x\right) \equiv h\left(x^{\frac{n}{f}}\right) \pmod{f^{\epsilon}} \quad (\epsilon > 0)$$

ナル  $h \pmod{f}$ ニ既約多項式  $h(y)$ ガ存在スルトキ、Krasnerノ原多項式ガ régulier ナリト呼ンテ $\neq \emptyset$ 。

而シテ  $g(x)$ ガコノ意味ニ régulier ナルトキ、 $f$ ヲ上記ノ意味トシ、 $e$ ヲ  $n/f$ トスレバ、 $h = g(x)$ 、

スベテ

$$\pi = \tilde{\pi} \cdot \varepsilon \quad (\varepsilon, \text{ハ } K = \text{オケル単位})$$

ナル形ヲモツ。ソコデ或ル  $\pi = \text{対シ } K = f(\pi) + \text{リ}$   
トスル。而シテ  $\pi$  ノミマス  $f$  ノ既約多項式 ( $n = ef$   
次) ヲ

$$g(x) = x^n + g_1 x^{n-1} + \dots + g_n$$

トスル。ソノ根ヲ  $\pi_0 = \pi, \pi_1, \dots, \pi_{n-1}$  トスル。

然ラバ (1) 即チ

$$\pi^{-f} g\left(\pi^{\frac{1}{e}} x\right)$$

ハ  $\pi_i: \pi^{-\frac{1}{e}} (i = 0, 1, \dots, n-1)$  ヲ根ニモツ, (コレ  
ラハ皆單位元デアール), 最高係數 1デアール (従ツテ前  
述ノ如ク整係數) 而シテ  $g(x) \pmod{\mathfrak{p}}$  ヲ考へルバ,  
コレハ  $\pi_i: \pi^{-\frac{1}{e}} \pmod{\mathfrak{p}} (i = 0, 1, \dots, n-1)$  ヲ根  
ニモツ。但シ此ハ今考へテキル凡ソル元ヲフクム或ル体  
ノ素いでやるトスル。コツテ若シ  $f = e = \text{於ケル } f$  次ノ多項  
式  $h(y)$  ガアツテ (2) 即チ

$$h(x^e) = \pi^{-f} g\left(\pi^{\frac{1}{e}} x\right) \pmod{\mathfrak{p}}$$

ナリトスレバ

$$h\left(\left(\pi_i: \pi^{-\frac{1}{e}}\right)^e\right) \equiv 0 \pmod{\mathfrak{p}}$$

ヲナケレバナラス。然ルニ  $\pi_i = \tilde{\pi} \cdot \varepsilon_i$  ( $\varepsilon_i$  ハ  $K$  ノ單  
位) トオケバ

$$\left(\prod_i \pi_i^{-\frac{1}{e}}\right)^e = \varepsilon_i^e \equiv 1 \pmod{\mathfrak{P}}$$

(何者,  $e = q^f - 1$ ).

ヨツテ  $h(!) \equiv 0 \pmod{\mathfrak{P}}$  と  $h(y)$  は  $\pmod{\mathfrak{P}}$  で  $h$  が既約  $\mathfrak{P}$  へ  $\mathfrak{P}$  得  $+1$ .

コレハ  $K/k$  が必ジモ *regulier* + 多項式, 根  $\mathfrak{P}$  へ  $\mathfrak{P}$  得  $+1$  ことヲ示シテキルト思フ.

次 = モウ一ツ解ラ  $+1$  所ガアル  $\mathfrak{P}$  だが.

$K/k$  ヲ  $\{f, e\}$  型 (即チ割合次数  $f$ , 分岐指数  $e$ )  
ノ拡大トシ,  $f'$  及ビ  $e'$  ノソレゾレ  $f, e$  デ割レル自然数  
トスル. 然ルトキ,  $\mathfrak{P}$  一  $\mathfrak{P}$  根ガ  $k$ ,  $\{f', e'\}$  型, 拡大  $\mathfrak{P}$   
而モ  $K$  ノ拡大ナル如キ体ヲツクル処,  $k = \mathfrak{P}$  於ケル

*regulier* + 多項式, 全体ヲ  $S_{K/k}^{(f', e')}$  デ表ハス.

Krasner ハコレ = ヨツテ  $K/k$  ヲ特徴ガケヨウト云  
フ  $\mathfrak{P}$  デアリマスが, 上記ノ如ク拡大体必ジモ *regulier*  
+ 多項式  $\mathfrak{P}$  得ラレヌト  $\mathfrak{P}$  得  $+1$  得,  $\mathfrak{P}$  一  $\mathfrak{P}$  根  $\mathfrak{P}$  得  $\mathfrak{P}$  得  
マスが, ソレヲ一歩譲ツテ, 旨ク *regulier* + 多項式  $\mathfrak{P}$   
得ラレル体, ミヲ考ヘルヤウ + 場合 = 限ツラモ  $\mathfrak{P}$  得  $+1$  得,  
点ガ兩  $\mathfrak{P}$  一  $\mathfrak{P}$  得  $\mathfrak{P}$  得  $+1$  得  $\mathfrak{P}$  得  $+1$  得. 即チ彼ハ

「La donnée d'un quelconque de ces  
 $S_{K/k}^{(f', e')}$  définit, manifestement, l'extension  
 $K/k$  à isomorphisme près (loi d'unicité)」

ト述ベテキマスガ、例へバ

$k$ ,  $L$  上、素数  $l$  次、不命岐拡大  $W$ ,  $\times$  ハリ  $k$ ,  $L$  上、 $l^2$  次、巡回命岐体  $K_1$  ヲ考ヘ、 $K_1 \times W = K_1 W$  ( $+L$   $l^2$  次、 $(l, l)$  型、アーベヒ拡大) = 含まレル第三、 $l$  次、(巡回且ツ命岐) 体ヲ  $K_2$  トスル。然ラバ  $K_1/k$  ヲ含ミ、 $k =$  對シテ素数  $l$  次、命岐指數共 =  $l$  ナル体  $K'$  ハ  $K_1$  不命岐  $l$  次拡大即チ  $K_1 W$  シカ存在シナイ。同様ナコトハ  $K_2 =$  ツイテモ云ヘル。ヨツテ増然

$$S_{K_1/k}^{(l, l)} = S_{K_2/k}^{(l, l)}$$

トナツテ、 $L$  上、一意性ハ成立シナイ様ニ思ハレル。

---

以上二点或ヒハ小生、誤解カモ知レズ、御教示ヲ得レバ幸デアリマス。